

## 議 事 録

第 2 回	
日 時	2015年1月9日(金) 14:00～17:00
場 所	埼玉県行田県土整備事務所 大会議室
議 事 名	第2回 星川環境保全検討委員会
	<p><b>■ 出席者</b></p> <p>学識委員 一般財団法人自然研究環境センター 上級研究員 渡辺綱男          京都大学大学院地球環境学堂 景観生態保全論分野 准教授          深町加津枝</p> <p>公益財団法人埼玉県生態系保護協会 事務局長 堂本泰章</p> <p>一般委員 みどりのぎょうだネットワーク 保護部会長 島田勉          行田ナチュラリストネットワーク 代表 橋本恭一          行田市民大学 理事長 今村武蔵          行田市郷土博物館協議会 会長 永沼規美雄</p> <p>行政 行田市建設部          埼玉県行田県土整備事務所</p> <p>事務局 埼玉県行田県土整備事務所 河川公園担当          (県土整備部河川砂防課)</p> <p><b>■ 次第</b></p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 出席者紹介</p> <p>4 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">I. 前回のふりかえり</p> <p style="padding-left: 20px;">II. 議題</p> <p style="padding-left: 40px;">1. 星川の原風景について</p> <p style="padding-left: 40px;">2. 馬見塚橋の保全方法について</p> <p style="padding-left: 40px;">3. アンケート案について</p> <p style="padding-left: 40px;">4. キタミソウのモニタリング方法について</p> <p>5 閉会</p>

## ■ 資料

- 資料1 第1回星川環境保全検討委員会のふりかえり  
資料2 原風景の要素（聞き取り調査・現地調査より）  
資料3 馬見塚橋現況図  
資料4 現況の馬見塚橋における治水的・構造的課題について  
資料5 馬見塚橋の概要・アンケート（案）  
資料6 キタミソウ調査結果（速報）  
資料7 キタミソウ調査記録用紙（案）  
参考資料1 星川環境保全検討委員会ニュースレター第1号（第1回検討委員会）  
参考資料2 星川環境保全検討委員会ニュースレター号外（聞き取り調査）  
参考資料3 馬見塚橋の歴史的背景（文献調査のまとめ）  
参考資料4 馬見塚橋の点検結果（2-4 3-3（馬見塚橋））

## ■ 議事

### 1 開会

- ・事務局より開会のあいさつがあった。

### 2 あいさつ

- ・渡辺委員長よりあいさつがあった。

### 3 出席者紹介

- ・第1回検討委員会欠席者の紹介を行った。

### 4 議事

#### I. 前回のふりかえり

##### 【事務局からの説明】

- ・第1回星川環境保全検討委員会のふりかえりを行った。

##### 【委員からの意見等】

- ・なし

#### II. 議題

##### 1. 星川の原風景について

##### 【事務局からの説明】

- ・事務局から星川の原風景の保全にかかる整備方針（案）について説明があった。

##### 【委員からの意見等】

深町委員	水際の植生や地形に関する資料はありますか？
事務局	種類や分布については、現在生態系調査をしているので、間に合えば次回付け加えたいと思います。
深町委員	場所によっていろいろな特徴があると思うので、そういったものを細かく見ていき、その観点から保全を考えていくことも必要だと思います。また、川は上流から下流まで繋がっているの、上流からどのような土砂が流れてきているのかということや、聞き取り調査の中で出てきたような昔は砂利の多かった場所やその砂利の状態等を調べ、川の流れの中でどういう整備や保全が可能なのか考えることが大事だと思います。
事務局	できるかぎり調査したいと思います。
渡辺委員長	具体的な植生分布から河川断面を考えていくことは、とても重要な点だと思います。河川敷の植生状況の共有について、今後よろしくお願いします。
島田委員	星川で泳いだり、魚やしじみを採ったり、運送に使っていたのはそんなに昔ではありません。座談会に集まっていた方が子どもの頃の話だと思うので、70年前（昭和20年代）くらいだと思います。原風景というのは今のお年寄りが子どもの頃の景色をイメージしないとイケません。星川を少し上流まで溯ると熊谷に龍淵寺というお寺がありますが、水が湧き出る龍ヶ淵というのがありました。砂利の間から水が出ていて、近くに清水尻（しみじり）という地名もあります。あの辺一帯が砂利層でした。下ってくると池守等、川に関係する地名が連なっています。
堂本委員	今後具体的に設計をしていく時に、川幅を確保できるところは治水のことや安全のことをどうするか、できる・できないという判断はどうするかで将来できるものが違ってきます。それについてはどの段階で知り得るのでしょうか。工事が進む中で、保全できる場所とそうでない場所があると思いますが、どれくらいの範囲で可能でどれくらいの金額になるのか。また、その結果、各委員の方の考えていた完成度とか離れる場合があります。その辺の作業というのはこの検討会が終わった後、どういう流れでいくのか、示す必要があると思います。
事務局	星川の左岸側に細い市道があり、その市道から河川までの空間をうまく使えないか、国と県で用地を買う等協議しています。
堂本委員	国の了解が得られれば、用地を買い増すことができるということでしょうか。
渡辺委員長	国の了解というのは、国交省が了解してもらえれば、用地を広げることは可能になるということですね。私も堂本さんがおっしゃった点はとても重要だと思います。大事な要素を拾い出すという作業も大変重要です。そのうえで、今後の河川整備の中で、拾い出した要素ができるだけ残される・再生されるよう

	<p>な河川整備を行うことができるかどうかが重要だと思います。用地の問題もあると思います。河川整備目標として掲げた安全な河川断面の計画に対して、きめ細かくそれぞれの場所で工夫することが今後の計画のカギになるのではないのでしょうか。</p>
今村委員	<p>原風景ということから考えると、星川橋から馬見塚橋の左岸側がポイントになると思います。右岸側は急斜面ですが、左岸側はワンドができていたりしていて、この地域の人はこの辺で遊んでいました。左岸側を特に原風景として考慮してもらえればと思います。できるだけ将来に渡って残していただくと、星川らしいものが残せるような気がします。左岸側は市道があって、次に田んぼがあり、そこから河川に降りていけるようになっていました。それが昔の人のイメージだと思うが、馬見塚橋から下流の改修済みのところは昔の星川とはかけ離れてしまっているように思います。キタミソウの自生地は残してもらいましたが、築堤部分から水面までの斜面が急になってしまったので、川に親しむという点では昔とは違うようになってしまいました。従って馬見塚橋から星川橋の左岸側は、ぜひ工夫してもらいたいと思います。</p>
堂本委員	<p>この方針が実現すれば素晴らしい計画だと思います。星川周辺の緑の保全方法について、行田市の環境基本計画やみどりの基本計画では、どう位置づけられているか知りたいです。もし位置づけられていなければ、今年基本計画が改訂なので、その際に盛り込めるかどうかで河畔林の扱いが変わってくると思います。検討をお願いします。行田市の財産になるのではないのでしょうか。</p>
渡辺委員長	<p>みどりの基本計画の動きを行田市の方で把握されていたら、少し紹介していただけますか？</p>
今村委員	<p>みどりの基本計画の改訂委員は決まったのですか？</p>
橋本委員	<p>1月5日付で決まりました。これから取り組んでいきます。</p>
渡辺委員長	<p>みどりの基本計画等の中で、市でも検討してもらえればと思います。また、既に整備したところでどのような変化が起きたかということも含めて、今後の整備のあり方を考えていく時に、原風景の残し方というのを考慮してもらえたらと思います。また、馬見塚地区の自治会で集まった時には橋の下流の話なども出ていたのではないのでしょうか。そこで得られた情報も今後の整備を考えていく上では大事だと思います。橋の下流の情報も地図に落とすような作業をお願いします。</p>
深町委員	<p>今までの状況を振り返り、もう少し違う整備の仕方があると思ったら柔軟に新たな形で川との関わりを考えてもらいたいと思います。配慮してやっただいているとは思いますが、実際現場に行ったり、写真を見たりすると、土木的な構造物の細かいデザインや素材に関してはもっと良い整備方法があると思います。もっと良い改修をしている地域はあって、今までたくさんの地域を</p>

事務局	<p>見てきた中では、良いとは言えません。デザインというのはとても大事です。馬見塚橋周辺だけでも8箇所の排水樋管があり、今はコンクリートがむき出しでゲートが鉄製のものになっています。貴重な意見として、今後の整備に活かしていきたいと思います。</p>
堂本委員	<p>池やたまりの再生という方針案があるが、そこに繁殖させる生き物や植物についても考える必要があります。例えば鴻巣市のコウノトリプロジェクトでは、コウノトリに必要なたまりの深さなどに応じて整備しようとしています。行田市でもそういった取り組みになると良いと思います。遊歩道とサイクリングロードを整備するという形の川の再生ではなく、生物多様性という視点での川の再生がここでできる可能性があるのではないのでしょうか。それをサポートする市民団体もあるので、ぜひいい取り組みをしてもらいたいと思います。</p>
深町委員	<p>渡辺委員長が星川を歩いた時に感動されていて、豊岡のコウノトリの郷に匹敵するくらいの川だとおっしゃっていました。堂本委員がおっしゃっていたような部分がすでにポテンシャルとしてあり、大きなことが目指せる場所だと思うので、ぜひ一緒に考えていきたいと思います。</p>
今村委員	<p>渡良瀬遊水地から利根大堰辺りまではコウノトリの飛翔範囲内になります。行田には北部耕地といって広大な田んぼがあり、そういうところが休耕田になりつつあるので、行田市はコウノトリプロジェクトに手を挙げるべきだと思います。</p>
渡辺委員長	<p>コウノトリのプロジェクトを進めている豊岡や野田を見た後にこの星川を見ましたが、そういう可能性を秘めている場所だと感じました。可能性を活かした取り組みを進めていき、川だけでなく周辺の樹林地や農地のあり方も含めて検討していくことで目標に近づけていければ良いと思います。コウノトリプロジェクトのように目標を明確にするのは良いと思います。</p>
島田委員	<p>排水樋管のコンクリートについては、もっと風景に合うようなものがあると思います。また、のぼうの城を書いた和田竜さんが水城公園の忍城を見て閃いたという風景のところで工事が始まっていますが、私から見ると、その風景にはふさわしくない点があります。行政の人とはとにかく専門家の話を聞いて勉強してください。多自然型や生物多様性など世の中は動いています。元の自然に戻す、川に戻すという話もたくさんあるので、専門家に聞いたり勉強したりしていただきたいと思います。私は星川だけで去年25回調査しました。旧忍川は70回以上調査しました。去年だけで600回以上鳥の調査もしました。星川では同時にキタミソウの様子も見ました。お互い勉強して意見を交換して、行田に自然や原風景を残して、水陸共に生物多様性を目指して行ってほしいと思います。</p>
今村委員	<p>行田市内には水路や川が多くありますが、原風景を思い起こさせる、いわゆ</p>

	<p>るふるさとの川というのは星川しかないのですから、大事に次世代に残していくようにしたいです。</p>
永沼委員	<p>大変よくまとめて研究されていて、素晴らしい資料だと思いました。また、協議も前向きで心強いと思っています。資料2の「原風景の要素4」池・深みのところに『池のように深くなっていたところ（4ヶ所）』とあるが、今この4ヶ所は土砂で埋まっている状況です。それを再生できたらという話があったと思いますが、実際に池だった時の形状を技術的に復元、再現できるのでしょうか。</p>
事務局	<p>技術的には可能です。</p>
永沼委員	<p>素晴らしい。ぜひお願いしたいと思います。</p>
橋本委員	<p>所有関係は大丈夫ですか。</p>
事務局	<p>整備に合わせて池の再整備をしたいと考えていますが、周りの状況は確認する必要があります。</p>
渡辺委員長	<p>今残っているものを残していくことと併せて、損なわれてしまったものを復活させるという取り組みも大事だと思うので、よろしくお願いします。</p>
橋本委員	<p>星川周辺の屋敷林、川からは少し離れた屋敷林も含めていかに保全していくかについては、みどりの基本計画の委員会でも発言していきたいと思っています。夏に休耕田に水を入れている時には、シギがたくさん来てそれを写真に撮りに来る人がたくさん増える等、環境的にはよくなっている面もあります。屋敷林や河畔林に至っては私有地が多いので、年間の手入れのお金を補助する等の検討も必要ではないでしょうか。私有権との関係もあり難しいと思いますが、全国的にはどのように残しているのか情報を知りたいです。</p>
堂本委員	<p>役所が調査しだすと、地権者は買収してくれるのではないかと感じてしまうので市民団体の方で動かないとうまくいかないと思います。所有者がどう思っているのか、まず市民団体が調べ始めた方がいいと思います。役所が調査すると「整備する」という前提で思惑が出てきてしまう。市民が市民の方にアプローチしていくことで相続の関係なども聞きだせることがあるのではないのでしょうか。市民団体と役所が連携して調べていくのが良いと思います。また、行田市のみどりの基本計画の中でも重要な緑地のエリアとして位置づける等、屋敷林等がどれだけ重要なのかということを知ってもらうのが大きなポイントではないのでしょうか。</p>
今村委員	<p>河畔林が残っているというのは奇跡的です。川沿いの河畔林は切り倒してしまっただけのところが多く見られます。</p>
島田委員	<p>生物多様性から見ると、あの河畔林・屋敷林は非常に重要です。鳥の調査を去年25回しましたが、ほとんど毎回オオタカの親、雄雌がいます。生物多様性を考えると、オオタカは頂点にいます。ということは、下の方の自然もしつ</p>

渡辺委員長	<p>かりしているということなのです。</p> <p>河畔林は生物の多様性を考えてもすごく大事な要素だと思うので、いかに維持していくかが重要です。河川整備でこの河畔林を極力切らないようにするというと、その外側の屋敷林もみどりの環境基本計画で重要と位置づける等、その大事さを強く出していくことで河川整備の中にも活かしていくのが良いのではないかなと思います。</p>
渡辺委員長	<p>2. 馬見塚橋の保全方法について</p> <p><b>【事務局の説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・馬見塚橋の保全方法について説明を行った。</li> </ul> <p><b>【委員からの意見等】</b></p>
渡辺委員長	<p>流量毎秒 60 m<sup>3</sup>というのが今の現行の河川整備計画の目標になっていて、その目標下で橋と水面の間に 60cm の余裕を持たせると、この横断図の赤い点線まで断面を広げないといけないという理解でいいですか？現行河川整備計画は、何年に策定したのですか？</p>
事務局	<p>平成 18 年 4 月です。河川整備計画というのは、将来計画ではなく暫定計画を目指していくもの。まず暫定計画に基づいて整備し、それが終わってからの将来計画になります。</p>
渡辺委員長	<p>河川整備計画は 30 年程度を目標年数としており、その目標流量は毎秒 60 m<sup>3</sup>。それが平成 18 年に決定したという理解ですね。また、前回の検討委員会でこの橋の価値に関して専門家の人の意見を聞いてみたら良いのではないかという話があって、深町委員から京大の久保田先生という土木や橋梁の専門家に詳しい資料も見ていただいてコメントを頂きました。その点について深町委員の方から話を頂きたいと思います。</p>
深町委員	<p>久保田先生は京都大学の社会基盤工学の専攻で景観設計学、特に橋梁が専門の先生ですが、大学に勤務する前は一般企業に勤めながら実際に橋の設計などをしていました。橋としての価値ということでお聞きいただいたコメントとしては、高欄の意匠が非常に特徴的で同年代の RC 橋よりかなり装飾的です。昭和 10 年頃当時鉄筋コンクリートは新素材であり、日本にもコンクリートの標準のやり方ができて間もない頃、そのような背景から木や鉄の高欄とは異なるコンクリートならではの造形、つまり曲面を採用した造形をあえて行った可能性が大いに考えられます。RC 橋には当たり前のディテールですが、高欄を貫通する排水のディテールも当時としてはコンクリートらしさを感じさせるものだったかもしれません。橋脚の部分と柱の意匠を見ると、西洋的な石造り建築の造形要素と日本的な木造構造の造形要素がミックスしたような風変わりな橋脚デザインとなっています。そういったところがこの橋が近代土木遺産と</p>

なった背景の理由として考えられるということです。コンクリートがもつ期間  
はせいぜい 100 年と言われているので、昭和 10 年くらいにたくさん作られた  
橋は、大概是架け替えられ、姿がほとんど残っていないという現状です。その  
中でたまたま馬見塚橋が残っているという社会的背景もありますが、装飾的に  
見ても特徴的な斬新な当時のデザインだったと言えとおっしゃっていました。  
この橋そのものは事務局側が示すように、現行の河川整備計画や安全性など  
を考えると問題があるのは事実だと思いますが、なんらかの工夫をすれば残  
すことも可能なのではないかという見解もあります。橋そのものが河川整備に  
おいて支障物になるというような位置づけにしてしまうと処置をせざるを得  
ないので、河川整備計画の目標とする数値や地域の位置づけを見直すことがで  
きるのであればという前提になりますが、2 t 制限は続けるとか、2 車線には  
しないとか、地元や関係するさまざまな人がそれらの制約を理解するというこ  
とも必要になります。橋の位置づけ自体としては、すぐ近くに新しい橋がで  
きるの、他の橋との役割分担を考えていくと、今の橋をしっかりと補強して耐震を  
考えて保全していくということも技術的には無理ではないということです。そ  
ういった決断をするのは、河川整備計画や橋としての機能の位置づけに関して  
きちっと合意していく等、多くの課題を乗り越えることが必要という見解をお  
っしゃっていました。それが久保田先生のご意見の概要ですがもうひとつ、橋  
そのものがあの場所の特徴を作り出しているということがあります。なぜ馬見  
塚橋の前後にキタミソウの生息地があるのかということを考えてとき、幅や蛇  
行の仕方が非常に絶妙なバランスになっていることが大きく貢献していると、  
東邦大学の西廣准教授がキタミソウ自生地現地研修会の際におっしゃってい  
ました。今の説明のように川幅を広げると、大量の水が流れ、土砂の流れ方が  
変わっていくこととなります。橋を付け替えるということは、河川断面の話だ  
けでなく、キタミソウの分布を支えている根本的な構造を大きく変えるとい  
うことにも繋がりがかねません。それは原風景が大きく変わることでもあるし、  
生物・植物の生息地としての価値を大きく変えてしまうという可能性も含めた  
大きな決断になるということが、橋のディテール以上にすごく大事な点だと思  
います。橋そのものだけなら部分的に残すとかいろいろな方法が考えられると思  
います。橋とあの場所の関係も含めて橋のことも考えていくということが、私  
たちが考えるべき事案なのかなと思います。

渡辺委員長

ありがとうございました。事務局からの説明と深町委員からの京大久保田先生  
のコメントを含めて、質問や意見がありましたらお願いします。

今村委員

この当時大正末期から昭和の初めに架けられた橋というのは本当に優雅で  
す。つい最近も堀切橋が「土木学会選奨土木遺産」に指定されていますが、馬  
見塚橋、その下流の齋条橋等、ユニークな橋が行田市内には多くあります。あ



	<p>る大学の先生に「橋めぐりをやっても近代遺産を活用できますよ。観光誘致にもつながりますよ」というアドバイスを頂いたことがあります。そういう面から考えると、深町先生がおっしゃったとおり、原型のまま残すべきだろうと思います。2tを超える車が通ってしまっているのであれば、ポール等で幅の広い車が通れないようにしてもいいのではないのでしょうか。星川橋や新しい橋もできるので、大型車が通る頻度は少ないと思います。普通乗用車が通れるくらいにして、それ以上の車は通れないような方法を検討し、今の橋のデザインを残していくべきだと私は思います。</p>
永沼委員	<p>深町先生やみなさんがおっしゃったご意見に同意です。私は馬見塚橋のすぐそばに住んでいるのですが、2t車制限の標識はあるので、実際に2t以上のトラックなどが通っているということはほとんど見ません。その辺は大丈夫だと思います。青木堀の西側の星川橋は10～20年前に整備されて広くなり、そちらを通る人が多いです。また、北進道路が平成28年度に完成すると、あそこを利用する方はかなり多くなると思うので、馬見塚橋の交通量はこれよりも少なくなるのではないのでしょうか。馬見塚橋を大きな車が通れるように整備することや架け替えは必要ないと思います。</p>
今村委員	<p>近代土木遺産になっているという標識を立ててもらいたいと思います。</p>
堂本委員	<p>資料4「4. 現橋梁を残すための方策」というところで、現橋梁を活かすためには一定区間の縦断形から見直す必要があるということだが、こういう作業は相当時間がかかるものなのではないでしょうか。これをクリアしていかないと前に進めないと思うのですが。</p>
渡辺委員長	<p>古い橋の利用に関してお話ししたいと思います。イギリスには石で作られた橋が大事に残されています。前後の道路は広いが何百年も前に造られた橋なので狭いですが、その狭い橋が保存され使われています。橋の上ではすれ違えないので、「ゆっくり走ること。手前で待ってすれ違わないようにすること。」という標識がありました。歴史的な価値を持つ橋が残されて、道路を走る人はそこが狭くてもいいという意識で使っている。日本ではそういう光景はそんなに多くないと思ったのですが、こういう考え方があるのだなと思いました。利用方法は地域の方と議論していく必要がありますが、前後に橋ができていたので馬見塚橋は不便だけど狭い幅員でもいいとして、「高欄の部分が低くて危ないかもしれないが気をつけよう」等利用の仕方でカバーしていける部分というのはあると思いました。ただ、治水に関してどう解決していくかという課題があります。また、コンクリート構造物なので石のように何百年も持たない。コンクリートの老朽化したものを耐久維持していく上で、どういう補強策があるかという点です。治水の観点とコンクリート耐久性問題をどう乗り越えるかが課題だと思います。その2点と、橋をなくした場合のキタミソウへの影響を含</p>

	<p>めて考える必要があります。そういった課題についてもう少し掘り下げて、技術的な面も含めて検討してもらって、みなさんから頂いた意見をできるだけ反映させた選択肢にたどりつけたらいいと思います。それぞれ簡単ではない課題なので、それについて事務局の方でも掘り下げて検討してもらえたらと思います。加えて、橋梁の技術的な専門の方、川の生態と土木的な河川工学と一緒に考えて研究されている方、そういった専門的な知識を持った方のアドバイスをいただけたらいいなと思います。できれば現場を見てもらってどういう方策があるのかという意見をもらって、事務局でもさらに掘り下げて検討してもらったものを合わせて、この委員会で情報を出しあって、みなさんで議論していくという形の進め方をしてはどうかと思います。事務局の方ではどうですか。</p>
事務局	<p>深町委員から馬見塚橋を架け替えることによって流れが変わるというお話しがありましたが、たしかに馬見塚橋の下流左岸側はキタミソウ生息地になっており、整備することで生息地がなくなったら元も子もありません。堂本委員から質問があった、現況橋を活かすために縦断形から見直す作業に関しては、かなり大変だと思います。また、難しいと思うがコンクリート桁をジャッキアップするという方法も検討しました。あくまでも現在の事務局案ですので、検討する過程で他の方法があるかもしれません。</p>
今村委員	<p>今、片側通行ですれ違いができないですが、あれくらいの長さの橋なら譲り合うということで問題ないと思っています。</p>
永沼委員	<p>一日に何回も通りますが、自分は譲るものだと思っています。心温まる感じで、人の心を感じます。</p>
今村委員	<p>川の流れによって、いろいろな地形を作っているのが自然な状態です。また、橋桁まで増水するというのが日常生活に影響するのかどうかは疑問です。欄干が低くて危ないというのは、見ればわかる。危険は自分で察知するべきだと思います。</p>
渡辺委員長	<p>馬見塚橋については今出たような指摘を受けて、複数ある課題について検討を進めてもらうということと、土木橋梁や河川生態系の専門家に現場を見てもらい、どういう可能性があるかについてアドバイスをいただく機会を設けることについて事務局で検討してもらいたいと思います。</p>
橋本委員	<p>3. アンケート案について  <b>【事務局からの説明】</b>  アンケート方法と内容（案）について説明を行った。  <b>【委員からの意見等】</b>  先程の課題に戻るのですが、現行の河川整備計画では10年に1回の雨を想定して川幅を広げなくてはいけないということでしたが、実際馬見塚橋のどこ</p>

	<p>ろで水が溢れたということはありませんか。</p>
永沼委員	<p>今までにはなかったと思います。</p>
橋本委員	<p>実際そこが大事なところだと思います。これから温暖化の影響で、60年に1回の雨が急に降るといことがないとも限らない。しかし、昭和10年から80年経っていて、永沼さんの記憶では溢れたことはないということです。</p>
島田委員	<p>昭和41年の台風では、忍川が氾濫して行田の宮本町辺りは1m以上冠水しました。その時はどうだったのですか。</p>
永沼委員	<p>橋の方に上がったという記憶はありません。ただ最近ではゲリラ豪雨等が話題になっているので、今後無いとは限りません。</p>
橋本委員	<p>実際に溢れる可能性があるということが前提だと、アンケートをとった際にそれなら川幅を広げて馬見塚橋を取ってしまった方がいいということになりかねません。</p>
渡辺委員長	<p>この「毎秒60m<sup>3</sup>」「10年に1回」というのは実際どういう計算で出てくるのですか。</p>
事務局	<p>星川より北側の地域に降った雨が流れこんでいます。10年に1回というのは、昭和33年に熊谷で2日間に300mmくらい降ったのですが、それに相当する雨が降った場合にどれだけ水位が上がるのかという計算方法になっています。</p>
今村委員	<p>一番水が増えた時で、馬見塚橋の下に着くくらいだったと思います。</p>
渡辺委員長	<p>今、昭和33年と同じ量の雨が降ったらと仮定して計算したら、毎秒60m<sup>3</sup>で溢れる危険があるということですか。</p>
事務局	<p>現在は、星川は田んぼの用水路がつながっていて、夏は斎条堰を閉めて田んぼに逆流させるというような形になっています。そのため、雨が降っても田んぼの方に水が行って、その分計画水位まで水が上がっていないという現状もあります。</p>
渡辺委員長	<p>田んぼがダムの役割を果たしているということですね。</p>
事務局	<p>それは流量計算に考慮していないので、田んぼに行っている水も星川に流れるという計算になっています。</p>
渡辺委員長	<p>橋本さんがおっしゃったように、当然住民は溢れてしまうのは避けたいと考えます。しかし、どういった目標の設定の考え方で川幅を広げるか理解できないと、溢れるから橋を架け替えた方がいいと取られてしまうという心配だと思います。それはすごく大事な点だと思います。</p>
栗原委員	<p>今回の委員会により、馬見塚橋の文化的な価値は十分理解しました。</p>
行田市	<p>市では平成23年度に市内の橋50橋を総点検しています。設置から80年経つということで、ひび割れや鉄筋露出が見られて、客観的な判定をしています。道路の幅員も3mと狭い。さまざまなことを勘案して、車両の重量化に耐えら</p>

	<p>れる橋梁とは言えないという判断をしました。市民の安全や利便性の向上を考えると、道路行政を担っているものとしては現段階では架け替えが妥当であるという判断を市ではしています。河川計画と橋の問題ということでも議論をしてもらいたいと思います。</p>
今村委員	<p>できれば今の状況のままで耐震とか補強できる方法を考えてもらって、橋脚のデザインなども極力残す。当時日本は貧しかったのに優雅なデザインの橋がたくさんあるということが不思議でなりません。当時の人はいかに文化度が高かったかということだと思います。そういうものをいかに後世に残していくかということが我々の責任ではないかと強く感じます。</p>
深町委員	<p>日本では壊して架け替えるのが当たり前という常識の判断をしてきたが、そうではなく、工夫していかに良さを引き継げるかというのが私達に与えられた大事な課題だと思います。架け替えなくてはいけないというのも良くわかるのですが、このアンケートは文化的に大事だからそのまま残すか、危ないから架け替えるか、二つに一つしか答えがないやり方です。しかし、ここで目指しているのはどちらも両立するように、いかにいい案を考えて実現していくかということなのではないでしょうか。もしいろいろな人にいろんな意見を聞きたいのであれば、ワークショップ等きちんと顔を合わせて、丁寧に何回も説明しながら意見を聞くやり方でやらないといけません。アンケートでたくさんの人に意見を聞くのはいいですが、本当に聞きたい答えが聞けるわけではありません。しかし、一回聞いてしまうと集計結果がすぐく力を持ってしまいます。また、このアンケートを見た人は当然架け替えてもらえるとか、残してもらえんと思ってしまうという点も不親切です。もしきちんとたくさん意見を吸い上げるというのが目的なら、この3つの地域で、ワークショップを開き、地元の人に参加してもらって、本当の意図である『橋や川をこれからにつなげるためにどうするか』ということが一番伝わらなくてはいけないところだと思います。このアンケートを急いで取るのは反対です。</p>
渡辺委員長	<p>治水との関係や耐久性の問題、川幅を広げることで環境が損なわれるという点について、それを掘り下げていこうという話をしましたが、単純なことではありません。こういうふうにやれば治水的な問題もクリアできて橋の価値も残せるとか、それぞれの課題について掘り下げて検討して、どういう選択肢があるかということを示してワークショップなどのやり方で地域の人に意見を聞くというのがいいのではないかと思います。先程の課題をしっかりと考えて、それぞれを満たせる具体的な選択肢を少し抽出してから地域の意見を聞かないと、聞かれたほうも反応のしようもないと思います。</p>
事務局	<p>検討したいと思います。</p>
永沼委員	<p>アンケートの目的として、架け替えた方がいいか残すかという意見を聞くの</p>

	<p>がひとつの目的だと思いますが、馬見塚橋は土木遺産になっているということを知らない地域の人もいると思います。流量の問題についても十分理解していない住民もたくさんいる中で、架け替えが必要かどうかという考えを聞かれても答えに戸惑う面もあると思います。例えば 51%対 49%という数字が出た時など、このアンケートの結果というのは公表しなくてはいけないと思うので、そういった場合に数字が多いのに数字が少ない方の結論になったりすると問題になります。数字というのはひとり歩きすることが多いので、もう少し検討した方がいいと思います。</p>
永沼委員	<p>今は大雨が降った時は斎条の堰をすぐに抜いて流量を少なくしていますが、そういうことをしても馬見塚橋は水をかぶってしまうのなら危険だと思います。</p>
事務局	<p>河川整備計画の数値は斎条堰の影響を考慮していない計算です。また、星川は見沼用水に流れ着き、見沼用水は利根川から流れています。大雨が降ると利根川の方の水門を閉めてしまうので、見沼用水もコントロールされています。複合的な要素で実際は馬見塚橋まで極端な水位上昇がない状態になっています。</p>
渡辺委員長	<p>田んぼの方に水が行くから星川の水位が高くなならないという話も先程ありました。そういう話を地域の方がわかりやすく理解できるように説明するというのは大事だと思います。</p>
島田委員	<p>馬見塚橋や星川の自然を見ても、地元の方は良さや重要さはあまり考えていない、気がつかない部分が多いと思います。そういったことを地元の人がわかるように啓発するといいいのではないかと思います。そういうことをしてからアンケートを取るならいいのではないのでしょうか。「古いから架け替えた方がいい」という意見が多いので架け替えるというのは問題があると思います。</p>
	<p>4. キタミソウのモニタリング方法について</p> <p>【事務局の説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キタミソウのモニタリング方法について、説明を行った。</li> </ul> <p>【委員からの意見等】</p>
島田委員	<p>ベルト 10 と 11 の間の和田神社の裏に洲があります。そこは星川の中でも面積が一番広く株数も多く、そこだけでおそらく日本でトップクラスだと思います。そこを調査してほしかったです。話がそれますが、ベルト 8 の辺りではカモ猟を許可しないでほしいと思っています。カモ網で生育地が荒らされています。本題のモニタリングの方法については、キタミソウは 11 月半くらいまでは親株だけで、そのあと子株をどんどん出します。大きいものになると 10 数本子株ができ、さらに孫株まで出します。株数を数えるときどこを数えるかが</p>

	<p>難しいと思います。12月半ばくらいだと株数数えるのが大変になります。月1回くらいと言いましたが、今頃は寒い日が続くのでほとんど枯れてしまい、2月10日前後から新しい芽がでてくるから、11月半ばと3月半ばに1回ずつ計2回ぐらいが適切だと思います。</p>
渡辺委員長	小学生の生徒でもできそうな調査ですか。
島田委員	酒巻導水路より上流は子どもたちもできると思うが、それより下流は湿地帯なので、酷いところは膝下まで埋まってしまいます。和田神社の裏などは特に危険です。子どもだけで行ったら大変なことになります。経験者なら危ないところや安全なところがわかりますが、今の子どもはそういうところで遊んだことがないから、危ないと思います。
永沼委員	一番左の馬見塚橋のところ南小とあるが、これは南河原小です。対象小学校は北小と星宮小と荒木小とあって、南河原小は入っていませんが、入れてください。学校の割り当てだが、斎条堰と大和橋、天籟橋にも星宮小とあるが星宮小の学区ではない。星宮小は馬見塚橋に入れた方がいいと思います。星宮小は児童数が少ないので、自分の学区の近くでモニタリングをした方がいいと思います。再検討していただければと思います。
事務局	斎条堰から下流は危ないという意見がありましたが、私も膝まで入ったことがあり危険だと感じました。小学生の調査は馬見塚橋周辺だけになってしまうと思っています。斎条堰から下流については、地元の方の方にお願いできるような方策を考えていきたいと思っています。
渡辺委員長	その場合は地元の人に協力していただけるよう呼びかけられますか。
橋本委員	市民大学からはどうですか。
今村委員	星川担当はいませんが、PRをします。数名から10名前後は参加できると思います。
島田委員	白川戸橋付近から下流、見沼代用水が合流するあたりや、北宿橋あたりも今まではキタミソウがたくさん生えていたが、水量が増えて水没してしまっています。武蔵水路の工事で増えているのかと思ったのですが、見沼代用水の水位が増えているように見えます。ここ2年くらい水量が増えていますが、どうして増えているのでしょうか。
橋本委員	生態系を守るために環境用水として増やしているのではないのでしょうか。
堂本委員	そうかもしれない。しかし、キタミソウにとっては害になってしまっています。市民参加のモニタリングですが、水量が年によって多かたり少なかたりするのは、前年やその年の灌水が関係あると思います。継続的に場所を決めてチェックすることはできますか。それを把握しないと原因がわかりません。モニタリング調査の予算は取れますか。費用はかかるとは思います。
事務局	水位のみの調査ということですか。

堂本委員	水位についてです。そこが肝心であると思います。水位等とキタミソウのエリアなど関係者が把握しておかないと、せっかく調査や整備をしてもだめになる可能性があります。
事務局	予算のこともあるので即答はできませんが、そういった意見があったことは受け止めておきたいと思います。
渡辺委員長	水位の変動と生育状況がどう関係しているのかという狙いを持ったデータ収集と分析をしないと答えが見えてこないと思います。前回の説明では5年に1回は調査費を確保するということがあったが、それとは別に、その間もデータを取っていくようなことができるか考えてもらいたいと思います。
堂本委員	県の条例指定種なのだから、県の公共事業にはみどり自然課も入ってモニタリングの仕方を検討するべきだと思います。
渡辺委員長	県の中でも連携して検討してください。地元の協力の呼びかけは、県の方からキタミソウを守る会や行田市民大学のほうにも声をかけてもらえればという意見があったので、子どもだけでなく大人による継続的な観察の体制を作っていく方向で関係者の間で相談を進めてください。
堂本委員	調査結果の速報で、馬見塚橋下流部のところで「中州の消失により生息地が消失した」という記載がありますが、中州の消失はなぜ起ったのかわからないのでしょうか。工事の影響があったのなら、工事の良し悪しではなく、事実として共有把握をしておきたいと思います。
渡辺委員長	整備の前後でどういった変化があったのかというのを分析してまとめておくことが今後につながると思うので、よろしくお願いします。
橋本委員	不思議なことに中州にはキタミソウはあまりありませんでした。泥が流れてくるので、芽吹いてもベルト状に生息しないのではと思います。
島田委員	馬見塚橋の下流は、今までは馬見塚橋のあたりから広がって川の流れもゆるやかでした。ところが整備後、流れが速くなったのではないかと感じています。
深町委員	工事前後の結果を踏まえて今後どうするかというのは検討が必要だと思います。フィードバックをしていくためにも、検討会でデータを出してもらい、要因を明らかにしてもらおう方がいいと思います。
渡辺委員長	できればそのデータを次回用意してもらえればいいのではないかと思います。
橋本委員	モニタリングの小学校について、教育委員会の課長には話をしています。もう一度私と栗原会長と県土で足を運び、お願いする必要があると思います。今月の末から来月あたりにスケジュールを組んでいただけますか？
事務局	わかりました。
渡辺委員長	専門家の方に現場を見てもらって意見交換をできればという意見がありましたが、間に合えば次回委員会までに機会を持てると、次回委員会でそれを踏

まえた議論ができると思うので、検討をよろしく申し上げます。

## 5 閉会

- ・連絡事項の説明を行った。

### ■連絡事項

- ・第3回検討委員会は3月中を予定している。

以 上